#### (1)小中一貫校とは

### 小中一貫教育を実現するためにつくられた学校のこと

#### →小中一貫教育とは?

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員がめざす子ども像を共有し、9 年間を通じた教育課程 を編成し、系統的な教育を目指す教育

### (2)小中一貫校のさまざまな形態

①義務教育学校:小中学校が1つの学校となり、1人の校長、1つの教職員組織で運営。

②小中一貫型小学校・中学校:独立した小学校と中学校が一貫した教育を行う。

それぞれの学校に校長、教職員の組織がある。 設置者により、併設型と連携型に分かれる。

#### 小中連携、小中一貫教育制度の関係



(文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き」より)

## (3)小中一貫校のメリットとデメリット

メリット	デメリット
・中1ギャップの軽減	・小学校から中学校への区切りがあいまいなことに
• 中学校への見通しが持てることによる不安の解消	より、中学校から心機一転がんばろうとする気持
・中1の学習内容へのスムーズな移行	ちがわかない子どももいる
• 系統性、連続性を意識した教育	・高学年がリーダーシップをとる場の減少
・継続的な指導	• 中高一貫教育との関係
※中1ギャップとは	
子供たちが小学校から中学校への進学に際し、新しい環	
境での学習や生活に不適応を起こす現象。	

# (4)山形県内の小中一貫校の例

校名	校舎	管理職	特徴的な教育内容
戸沢村立戸沢学園	小中学校で1つ	校長 1 人	・9年間を見通して全ての教職員で子どもひとりひと
(義務教育学校)		教頭3人	りに寄り添った教育
			• 初等部高学年の教科担任制と小中教員の TT 指導
			・小中合同の集会・行事の実施
新庄市立明倫学園	小中学校で1つ	校長 1 人	・9年間を前期4年、中期3年、後期2年に区分し、発
(義務教育学校)		教頭3人	達段階に応じて指導
			・5、6年生で一部教科担任制の実施、小中教員の交流
			授業
			・8、9年生における教科教室制の推進。5~7年生に
			おいても可能な限り教科教室の活用を図る。(ただし、
			教科教室は8、9年生の普通教室と近い位置に配置)
			・小中の合同ボランティア活動
			・行事での交流
			• 児童会、生徒会活動の交流
			・読み聞かせ等中学生ボランティア
新庄市立荻野学園	小中学校で1つ	校長1人	・前期4年、中期3年、後期2年のブロック制の指導
(義務教育学校)		教頭3人	・中期ブロック段階からの教科担任制の導入
			・ 教科教室制の導入
			・運動会や文化祭のような学校行事、遠足などの4-3
			ー2の学年ブロックの行事で縦のつながりを重視した
			活動